

J A 御 中  
(営農担当部署)

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会  
(事務局：J A福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)  
(公 印 省 略)

[ 緊急 ]

## 営農情報 9

# 台風10号接近に伴う技術対策について

気象庁によると、台風10号が九州に近づいています。8月15日(木)頃に九州北部に最接近することが予想されておりますので、下記の事項を参考に、技術対策の実施をお願いします。

### 留意事項

ほ場・農業用施設の見回りは、気象情報を十分に確認し、大雨や強風がおさまるまでは行わないで下さい。また、大雨等が収まった後の見回りにおいても、増水した水路など危険な場所には近づかず、人命を最優先に事故防止の徹底に努めてください。

### 1 水 稲

#### 【早期水稲】

- 収穫期となっているほ場は、可能な限り台風襲来前に収穫を行う。  
台風通過後に収穫する場合は、落水管理とし、台風通過後速やかに収穫する。
- 収穫期までに1週間以上あるほ場は、倒伏及び稲体表面からの異常蒸散による「急性萎凋症状」の発生を防ぐため、深水管理を行う。  
台風通過後の数日間は、ほ場の水を切らさない程度に、浅水管理とする。
- 成熟期が近いほ場で倒伏した場合は、台風通過後早急に落水し、穂発芽を防止する。
- 倒伏が発生した場合、高水分籾が荷受けされるため、共乾施設は乾燥時間がかかることを想定し荷受けを行う。

#### 【普通期水稲】

- 強風による倒伏や葉の裂傷、稲体表面からの蒸散作用により脱水症状となる「急性萎凋症状」が発生する恐れがあるため、台風通過時は深水管理を行う。  
特に、極早生は出穂期前後、早生は、穂ばらみ期のため、必ず深水管理にして穂を保護する。
- 台風通過後の数日間は、ほ場の水を切らさない程度に、浅水管理とする。
- 冠水した場合には、早急に排水を図り、冠水時間を短くする。排水後は、できるだけ新しい酸素を含んだ用水との入れ替えを実施する。
- 白葉枯病、紋枯病の発生に留意し、発生に応じ対策をとる。

(裏面につづく)

## 2 大豆

- 台風接近前に中耕培土を実施するとともに、雨による停滞水を出来るだけ早くほ場外に排出するため、畦溝や排水溝の整備を行う。
- 台風通過後、大雨でほ場内に停滞水がある場合は、本暗きよの栓を開けて排水し、再度、乾燥防止のために栓を閉める。
- 表面に停滞水がない場合は、本暗きよの栓は閉めたままにしておく。
- 台風通過後に、再度、畦溝や排水溝の点検・整備を行う。
- 葉焼病の発生に留意し、発生に応じ対策をとる。